

TRAFFIC ADVICE [埼玉県川島町立出丸小学校・自転車教室]

交通安全活動をサポートする



写真上/練習走行の前にインストラクターが自転車を安全に操作するためのポイントを丁寧にアドバイス
写真下/パイロンスラロームに取り組む児童たち



中学校へ進学後 安全な自転車通学をするための教育

交通安全センター「レインボー埼玉」は、地域貢献活動の一環として、毎年3月になると近隣にある埼玉県川島町立出丸小学校の6年生を対象に、「自転車教室」を開催している。同小学校の児童が卒業後に通う中学校は少し離れた場所にあるので、ほぼ全員が自転車通学をすることになる。そのため、児童に自転車の安全な乗り方を、体験しながら身につけてもらいたい、それがこの教室の目的である。

3月24日午前10時、前日に卒業式を終えた出丸小学校の6年生17名が自分の自転車に乗って、交通安全センター「レインボー埼玉」に集まった。

自転車教室は約2時間にわたって行われる。最初は自転車の点検について、サドルの位置の調節や、ブレーキのきき具合、タイヤの空気圧、ベルの鳴り具合を、児童たちは各自点検していく。点検が終わると、インストラクターが児童たちといっしょに歩いて、練習用に設定したコースを案内する。コースには実際にクルマが走る道路も含まれているため、車道と交差する箇所では、「きちんと足をつけて止まって、左右の安全を確認してください」と、左右



交差点では必ず一時停止して左右の安全確認を行うことの重要性を児童たちは理解した

の見通しが悪い交差点では、「一時停止した後、足をつきながら少しずつ前に出て、左右を確認しましょう」とインストラクターが立ち止まってアドバイスを。さらに、「例えば、左の曲がり角を走行する時は、右側のペダルを下側に曲がって曲がってください。左側のペダルを踏んだ状態だと、自転車を左側に傾けるため、ペダルが地面に接触しやすいです。万が一そのまま転倒した時に足が自転車に挟まれやすくなり危険です」と付け加えた。

そして、児童たちは自転車に乗車して、練習用コースを走行。安全確認の他、コース上に用意されたパイロンスラロームや一本橋など、バランス感覚を養う課題にも取り組んだ。

この日、自転車教室を見学していた保護者からは、「わかっていても一時停止や左右の安全確認を忘れてしまう子どもに、インストラクターの方が繰り返し声をかけて指導していただけたのがよかった」という感想が聞かれた。

NEWS REVIEW

平成16年度国際交通安全学会研究調査報告会
ならびに学会賞贈呈式

学際的な視点から交通諸問題に取り組む

4月22日、経団連会館(東京都千代田区)で、「平成16年度国際交通安全学会研究調査報告会ならびに学会賞贈呈式」が開催された。

研究調査報告会は、平成16年度に成果が明らかになった研究プロジェクトの中から、「道路交通パフォーマンスマネジメント手法の展開」「人口減少時代における土地利用フレームワークと交通システム」「市民参加型交通安全対策支援システムの面的な交通安全対策への適用」「東南アジアにおけるオートバイの都市交通手段としての役割と限界に関する研究」の4テーマが発表された。

また、26回目となる国際交通安全学会賞の受賞者は以下の通り。

<業績部門>

「鉄道再生に向けた行政・住民・企業が一体となった取り組み(えちぜん鉄道(株))

『道路交通政策史概観』の編纂(道路交通問題研究会)

<著作部門>

「人間都市クリチバ」(服部圭郎・明治学院大学助教授)

<論文部門>

「Basic Study on Tailormade Braking Support System」(廣瀬敏也・芝浦工業大学(現在、独立行政法人交通安全環境研究所専門研究員) 澤田東一・芝浦工業大学教授、小口泰平・芝浦工業大学教授)



写真上/3月1日に行われた中嶋悟さんの講演会の模様
写真下/中嶋悟さん(写真右から2番目)、谷元真彦さん(写真左から2番目)

交通安全活動を広げる SAFETY REPO

本田技研工業(株)四輪新機種センター

所員一人ひとりが交通安全への参加意識を高めた無事故強化月間

本田技研工業(株)四輪新機種センター(栃木県)では、各部署の代表者で組織される交通部を設け、所員の交通安全活動に取り組んでいる。交通部では、2005年2月から「春の全国交通安全運動」が終わる4月15日までを無事故強化月間として、所員への啓発活動を展開した。

期間中は「無事故強化月間展開中」と書かれたワッペンを所長以下、所員全員が制服の肩口に付けた。ワッペンの余白部分には、所員一人ひとりが自分で交通安全防止のために掲げた決意が書かれた。

昨年度、交通部会長を務めた谷元真彦さんは「自分の決意を自分の手で書き込み、常にそれをお互いに見せることが、目に見えて全員参加する活動になると考えました」と話す。

また、3月1日には元F1レーサーの中嶋悟さんを講師に迎え、「F1レーサーの目から見た交通安全」という講演会を四輪新機種センターの管理監督者83名を対象に開催した。中嶋さんの34年間150万km無事故という運転歴や、レースでの経験から得られた安全運転講話は参加者に好評だったという。

「中嶋さんは片側2車線の道路では必ず左車線を走るとおっしゃいました。なぜなら、右車線にいたると対向車と衝突するリスクが左車線より高いからだそうです。自分に起こり得るあらゆる危険を想定して運転することが、自分を守ることにつながるのだと、よく理解できました」(谷元さん)。

この他、所員がクルマに乗って退社する時間帯に、シートベルト着用やライトの早期点灯を促す旗を交通部会のメンバーが持ち、駐車場の出口に立つなどの活動の効果もあり、事故件数が減ったという。

「交通安全は自分たちが参加し、実行しなければ意味がないという意識が所員の中に確実に育っています」と谷元さんは無事故強化月間の成果を語った。

TOPICS レインボーマータースクール和光新社屋落成記念式典 生涯安全教育の場にふさわしい新校舎完成



4月25日、レインボーマータースクール和光(埼玉県)の「新社屋落成記念式典」が行われた。主催者を代表して入野吉勝(株)レインボーマータースクール代表取締役社長が、「この新社屋はすべてのお客様に楽しさ、快適さを提供するだけでなく、教育効果のさらなる向上をめざし、お客様と共に生まれ変わる施設として建設しました」と挨拶。

新社屋はすべての人が利用しやすいよう、エスカレーター、エレベーターを完備し、全学科教室に車椅子での受講ができる机を設置。また、各映像機器の導入により、明るい教室でスクリーンを見ることが可能になった。さらにラウンジやフリースペースといった、教習の合間にくつろぐことのできるリラクゼーションの場も確保するなど、「生涯安全教育の場にふさわしい未来を見据えた快適さと合理性」というコンセプトが実現された。

活動短信

交通安全センター 4月

「交通安全センター」の活動短信

「交通安全センター」の活動短信

「交通安全センター」の活動短信

「交通安全センター」の活動短信

「交通安全センター」の活動短信

「交通安全センター」の活動短信

「交通安全センター」の活動短信

「交通安全センター」の活動短信

「交通安全センター」の活動短信

「交通安全センター」の活動短信

「交通安全センター」の活動短信

「交通安全センター」の活動短信

「交通安全センター」の活動短信

「交通安全センター」の活動短信

「交通安全センター」の活動短信

「交通安全センター」の活動短信

「交通安全センター」の活動短信

「交通安全センター」の活動短信

「交通安全センター」の活動短信

「交通安全センター」の活動短信

「交通安全センター」の活動短信

「交通安全センター」の活動短信

「交通安全センター」の活動短信

「交通安全センター」の活動短信

「交通安全センター」の活動短信

「交通安全センター」の活動短信

「交通安全センター」の活動短信

「交通安全センター」の活動短信